

こんなんやってます！里山レンジャーの活動

里山レンジャー

はじめに

里山レンジャーは、その名の通り、「里山を守るために日々、環境を破壊する怪人たちと戦っています」というとカッコいいのですが、そうもいかず、地道に里山の保全に関係する活動を行っています。今回は、いくつかある活動の中の2つを紹介します。

秋といえばこのプログラム！

1つ目は、環境体験事業のお手伝い。いろいろな方から依頼があるのですが、その中で、一番多いのが小学3年生の環境体験事業のお手伝いです。小学校からの依頼を受けるのですが、私たちは「教育」という概念で接するようにはしていません。あくまでも「学習」をしてもらうことに徹しています。例えば、秋に来られる小学校の方にはバッタ目を採集（主に有馬富士公園）して、観察してもらうという事業を行います。これは、3年生で昆虫の体のつくりなどの学習をするのに合わせたものです。最初に、バッタ



写真1. オリジナルのペットボトル捕獲器で、虫の苦手な子ども、ほら！

の学習（復習を含めて）や注意すべき動植物、行動などについてパワーポインターなどで説明します。そのあとで、道具（私たちはコオロギ捕獲器と呼んでいます。オリジナルの道具を作成しました）を使ってバッタを採集し、そのあと、それを観察・記録という作業を行います。さて、簡単に採集と書きましたが、昆虫が嫌い！という子どもも多くいます。そこで考えられたのがコオロギ捕獲器です。この捕獲器は、500mlのペットボトルを2本つかって作成しているのですが、その最大の特徴は、虫嫌いの子供でも、必ず採集できるという点です。なぜ？って。それは、一切昆虫に触ることなく採集できるからです（写真1）。これで1匹捕まえると、あとは昆虫が怖いと言っていたのが信じられないくらい、楽しみながら採集し始めます。これこそ、私たちの狙いです。このことで自然を楽しむことを知ってもらえます。次に、なぜ、「教育」ではなく「学習」なのかというと、子供達は、昆虫を捕まえると名前を知りたいがり、すぐにスタッフに尋ねてきます。でも、スタッフは、名前を教えません。後で、図鑑を見ながら、自分たちで名前を調べてもらいます。確かに教える（教育）するのは簡単です。しかしお教えてもらったことはよほど印象に残らない限り簡単に忘れます。ですので、自分たちで調べてもらい、その結果があっているかをスタッフが見て回ります。その時に、観察記録用紙に事前に説明した昆虫の体のつくり「頭、胸、腹」を分けてかけているか、特に脚は胸からかけているか、バッタの耳、雄雌の区別見ってもらうなどのこともおこない、楽しいプラスαを付け足します。そして、最後に、「自分たちの街と比べてみよう」と宿題？も出します。これで、少しでも、環境について興味を持つきっかけづくりになればよいと思っています。

今年もあります！クワガタ・カブト展

次に、2015年、2016年と「世界のクワガタ・カブトムシ展」を有馬富士公園で実施しました（写真2）。なぜ里山レンジャーが・・・と思われる方も多いと思います。もちろん、私たちも世界に羽ばた



写真2. カブトムシに触れるドーム、昆虫折り紙コーナーもあり、連日賑わいます。

(有馬富士公園パークセンターにて)

く里山レンジャーを目指しているのではありません。まずは、日本にいる昆虫（生き物）に興味を持ってもらいたいのです。しかし、日本にいる昆虫を展示しても、あまりにも身近すぎて、興味すら持ってもらえません。そこで、まずは人気のある世界の有名な種類や変わった種類のほかに日本のクワガタ・カブトの両方を展示しすることで足を運んでもらい、楽しみながら興味を持ってもらうことにしました。その結果、少しずつですが来場者がふえ、日本の北摂に生息するクワガタ・カブトムシもしっかりと見ていただけるようになりました。

私たちは、環境を守るためにはどうすればいいか、まずは、楽しむことで興味を持ってもらうことから始めることが第一歩だと思っています。そこから、だんだんと環境保全活動に参加してくれる人が増えることを願って活動を続けていきたいと思っています。